

Ⅱ-7 分科会Ⅲ～グループワークと個人ワーク～

2 日目に行われた分科会Ⅲでは、3 つのタームでグループワークと個人ワークを行い、1 日目に得た知見や気づきも踏まえて「どのような大学職員になりたいか」を明確に自覚するとともに、その理想に近づいていくための「自分軸」となる、これからの行動指針（マイクレド）を考える場としました。全体としては「参加者全員が積極的で発言も多く、刺激や気づきをたくさん頂けました」、「かなりの量の情報が得られた」、「今まで参加した中でいちばん楽しい分科会Ⅲだった」などの感想を頂き、概ね高い評価を得ることができました。

○ターム 1 (9:20～10:20、60 分)

まず、ターム 1 では「なりたい自分、なりたい大学職員」を理解するヒントを得るため、「①好きな言葉とその理由」「②好きな人とその理由」「③くじトーク」の 3 つのグループワークを行いました。これらのワークは、普段、自分たちが何となく思っていることについて、自分なりの理由を言葉にしてみることで、自分の潜在的な考え・価値観にはっきりと気づくことをねらいとしていました。

参加者からは、「自己理解を深めることができてよかった」、「好きな言葉・人の裏に意外な理由があって面白かった」、「ターム 1 が特に楽しかった。他の参加者の好きな言葉や人などを話し合うことで、短い時間ではあったがそれぞれの人となりを知ることが出来、連帯感が生まれたように思った」という前向きな感想が多く見られましたが、自分自身の考えに気づくことよりも、他の参加者の発表に興味を持ったという方が多かったようです。また、ターム 1 のメンバーで別のワークをしてみたかったという感想も複数聞かれました。

○ターム 2 (10:30～11:50、80 分)

次に、分科会Ⅲのメインとなるターム 2 では、これまでに得た知見や気づきを「素材」として、グループワークを通じてそれぞれの「なりたい大学職員像」を考えました。

グループワークでは、自分がどのような大学職員になりたいのか、理想の大学職員はどのような「要素」を持っているのかを各自が考え、キーワードを附箋に書き出して、黒板に記載されている人型モデルの「顔」「胸」「手」「足」と部分ごとに貼付け、そのキーワードの意味や、書いた理由をグループで共有した後、それぞれのなりたい「要素」に近づくためにはどのような行動をすればいいのかという「行動のポイント」を全員で議論し、最後に「なりたい大学職員像」をワークシートにそれぞれ記入しました。

このタームは、前日のキーノート・トークや、分科会Ⅰ、2 日目の分科会Ⅲターム 1 で学んだことや気づいたことを一度振り返って整理し、また同じグループの参加者の考えや感想を聞くことで「どういう大学職員になりたいのか」という現時点の自分の価値観をはっきりさせることと、次のターム 3 で行動指針を考えるための準備段階として「行動のポイント」を考えてもらうことを目的としていました。参加者から、理想の大学職員の「要素」と「行動のポイント」の使い分けが難しかったという感想があったことは、実行委員からこの点についてもう少し明確な説明が必要だったという反省材料になりますが、ワークのねらいとしては、まず、自分たちがどうなりたいのか、どうありたいのかという「なりたい大学職員像」を「要素」として挙げてもらい、そうなるためにはどう行動するか（行動指針）を「行動のポイント」として挙げ

てもらうことを考えていました。参加者から「自分のこれからのあり方について考えることができた」、「2 日間のことを、自分なりに結論づけられた」という感想も頂いたことから、一定の成果は上げられたのではないかと考えています。

○ターム3（12:00～13:10、70分）

最後に、1日目の分科会Ⅰのグループに戻り、お昼を食べながら2日間を通じて気づいたことや発見したことを振り返り、共有した後、参加者一人一人が現時点での「なりたい大学職員像」と「マイクレド」を考え、グループ内で宣言する形で発表しました。参加者からは「時間が足りない。もっと熟考したかった」、「マイクレドにまとめるのが難しかった」、「現実的かつ現状だけの目標ということになってしまった」という感想もありましたが「1日目と同じメンバーと行うことで、スタートと到達点の違いも見えて各々の収穫したものがとてもよく分かり共有しやすかった」、「これからの行動指針を立てることができ、日常の仕事に活かしていける」「マイクレドは仕事をする上での原点だと思うので、話し合えてよかった」という感想も多く寄せられました。

実行委員としては、みなさんが、この報告書やクレドシートを基に、コクダイパン会議での2日間をもう一度振り返り、整理して、自分なりの「なりたい大学職員像」と「マイクレド」を完成していただければ嬉しく思います。

【コラム】 総合司会が「全体会」から感じた参加者の雰囲気の変化

朝から始まった分科会Ⅲも駆け足で過ぎ去り、充実感を皆漂わせながら、いよいよ最後の全体会が始まりました。

この全体会では、参加者は分科会Ⅲでまとめた「なりたい理想の大学職員像」とそれを指すための行動指針「マイクレド」を発表し、全員で共有しました。

発表者は手を挙げての立候補制だったので、手が挙がるか心配していました。実際、初日の全体会では手が挙がる事が多くなく、手が挙がらなかった時に備え、台本もこっそり用意していました。

しかしそんな予想に反して、最初はぽつぽつと、最後にはわらわらと複数人が同時に手を挙げるなど、最終的には計10名ほどの発表者が自ら手を挙げて発表を行いました。

発表された「マイクレド」は決意表明や具体的な業務改善といった王道のものから、大学職員には格好のオシャレさも大切と説くユニーク路線まで多々あり、時折笑いが起きるなど、温かいムードに包まれながら進行しました。

このように積極的な発表が行われたのは、全体会の開始早々に発表をした積極的な参加者の熱意に触れ、初めは発表を迷っていた参加者のハートに、2日間で得たものをみんなの前で発表したい！という、積極的な気持ちが湧きあがってきたからではないでしょうか。

こうして、熱気を帯びたまま第8回コクダイパンは幕を閉じました。
このような積極的な全体会の雰囲気が生まれたのも、全国から集まった、最初は他人同士だった参加者が、2日間顔を合わせ、真剣に議論を重ねた事によるものではないかと感じました。

第8回コクダイパングッズ紹介



(1) 缶バッジ
毎年恒例の缶バッジ。
今年コクダイパン仙台開催なので。
仙台→伊達政宗→和風→黒・・・

そしてテーマパンもクロワッサン！
ということでイメージカラーは黒！
黒をベースに、デザインしました。
参加した証としてぜひいろんなところに
付けてください！

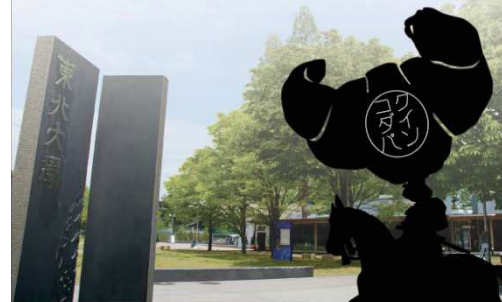
(2) ラベルシール
資料を閉じるフラットファイルに貼ってあるシール。
会場となる東北大学を背景に、伊達政宗の兜がクロワッサンになっている通称“クロ宗”をあしらってみました。
「さそりみたい」と言わずかわいがってあげてください！！

第8回コクダイパン会議

於：東北大学

描こう、未来！見つけよう、自分軸！

平成26年10月12日(日)～13日(月・祝)



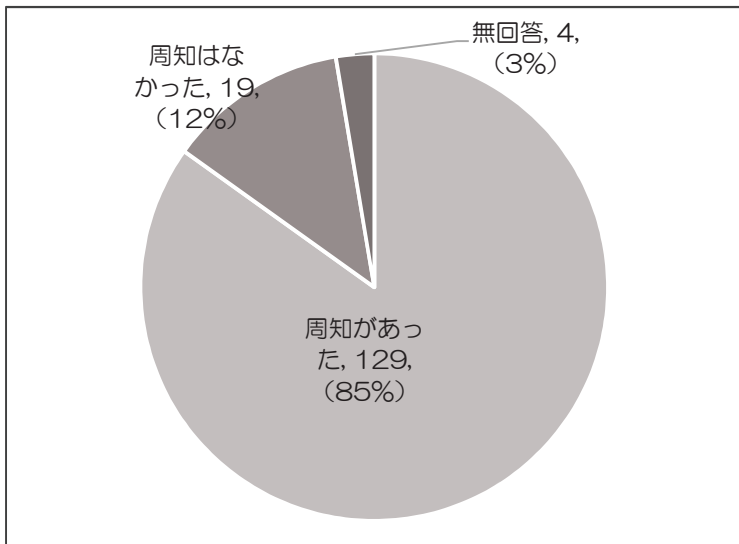
(3) オリジナルシャープペン
第8回コクダイパングッズの目玉のオリジナルシャープペン。
普段使い可能で実用的なグッズということでオリジナルシャープペンを作成しました。
普段使いしてコクダイパン会議を広めていただければ幸いです。

第8回コクダイパン会議終了後、アンケートを行い、150名（約90%）の参加者から回答を得ました。ここではその集計結果をご紹介します。

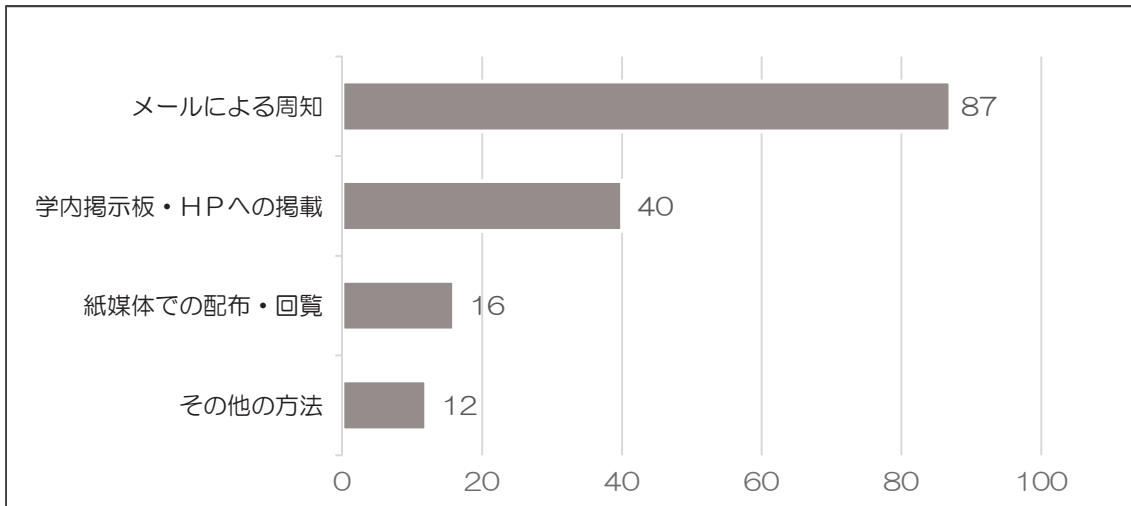
1. 会議に出席するにあたって

1-1. 所属大学や研修先における、コクダイパン会議開催の周知状況

—周知の有無—



—周知方法（複数回答可）—

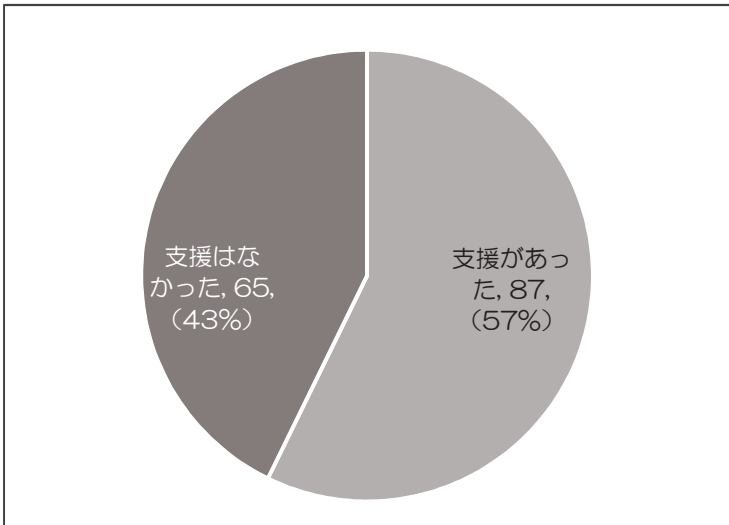


「その他の方法」の回答

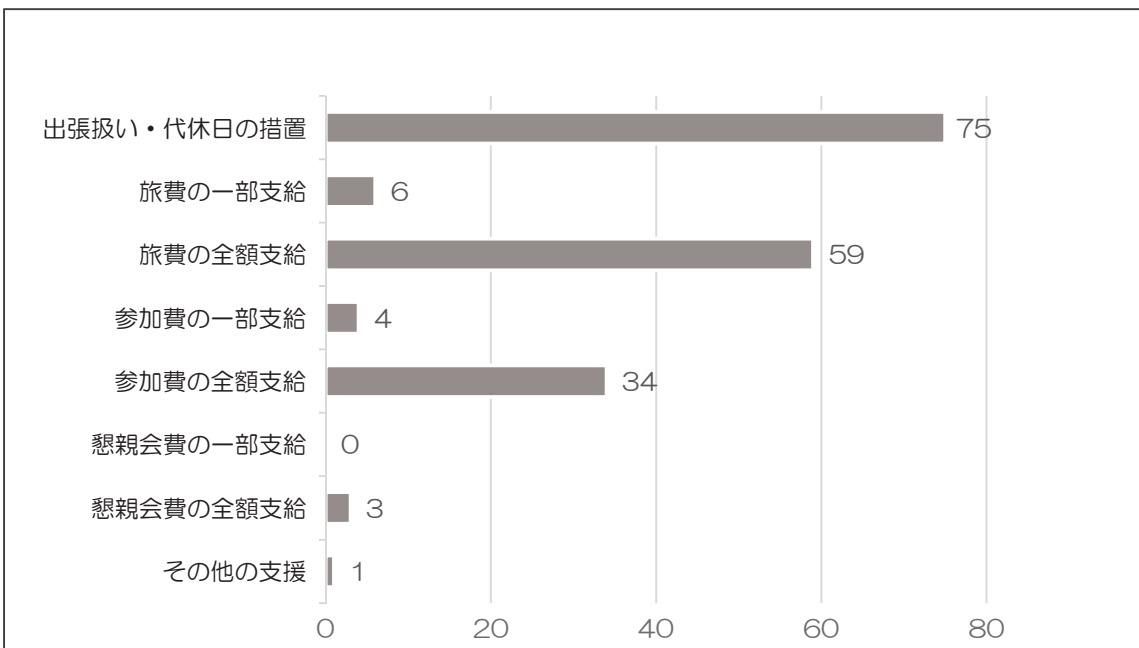
・前回参加者からの情報提供 ・人事担当者からの周知 ・有志のML ・実行委員からの呼びかけ

8割以上の大学で何らかの周知が行われているようです。周知方法としては、複数の方法で行われている大学もあるようですが、過半数がメールによる周知のようです。

1-2. 所属機関において、コクダイパン会議参加に対する何らかの支援はありましたか。
—支援の有無—



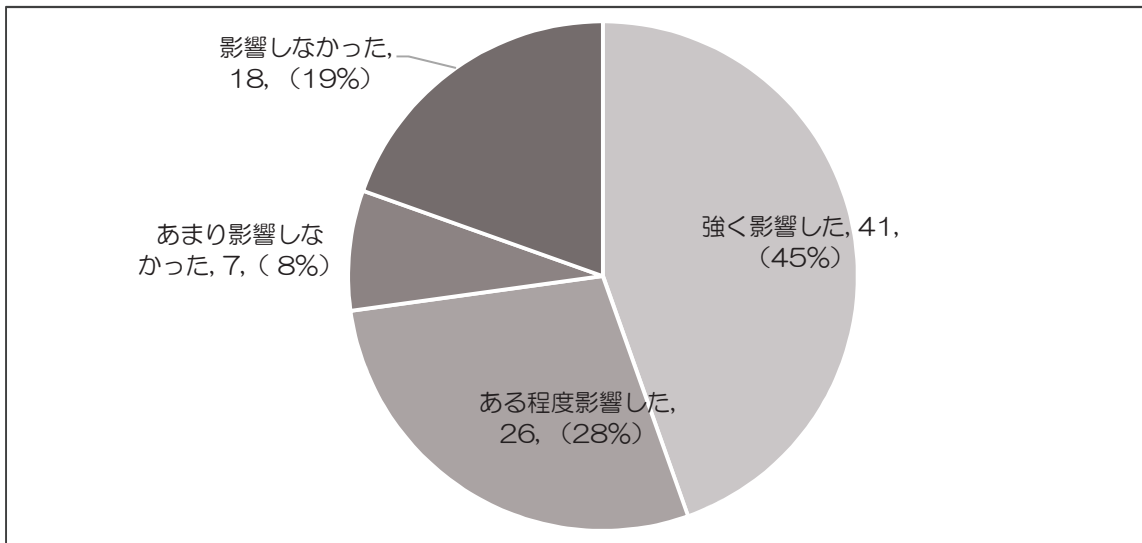
—支援方法（複数回答可）—



約6割の参加者が何らかの支援を受けており、コクダイパン会議の認知度と期待感が高いことがうかがえます。また、4割の参加者が支援のない状態で参加しており、参加者の意識の高さがうかがえます。

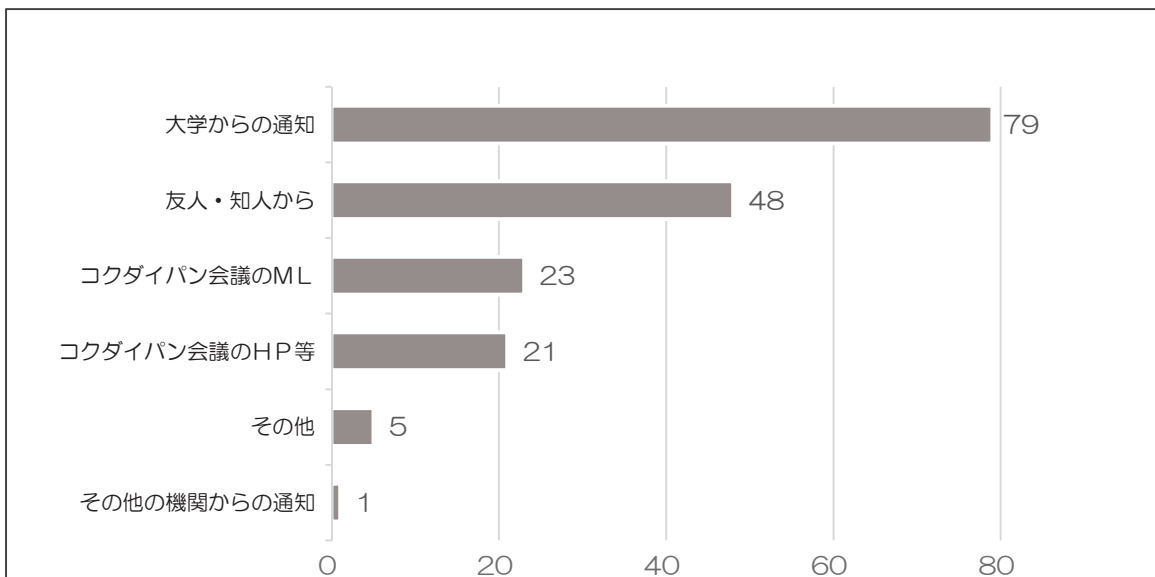
支援の方法としては「出張扱い・代休日」の措置が一番多く、一部では参加費や懇親会費などコクダイパン会議に参加に掛かる全ての費用を負担している大学もあります。これらのことから、各大学のコクダイパン会議への期待感が高いことがうかがえるのではないのでしょうか。

1-3. 支援の参加意欲への影響（支援があった参加者のみ）



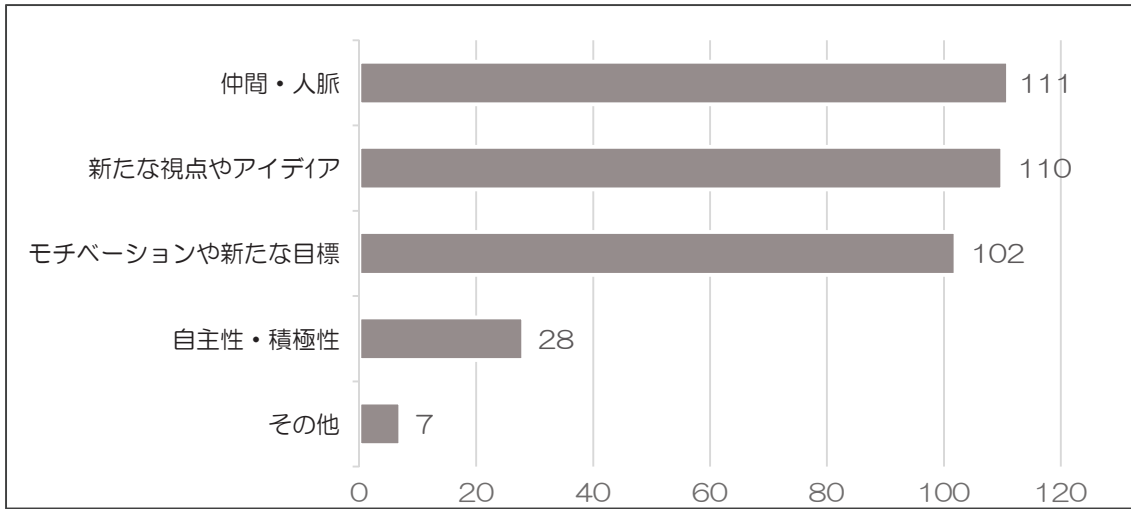
支援のあった参加者のうち、7割以上は一定の影響があったと回答しています。「強く影響した」と回答した参加者は5割に近く、コクダイパン会議への自発的な参加をどのように促すかは今後の大きな課題となります。

1-4. 第8回コクダイパン会議の情報源（複数回答可）



最も多いのは「大学からの通知」ですが、その次は「友人・知人から」となっており、人とのつながりが大事な情報源となっていることが分かります。

1-5. 会議に参加することによって得たい・身に着けたいもの（複数回答可）



「その他」の回答

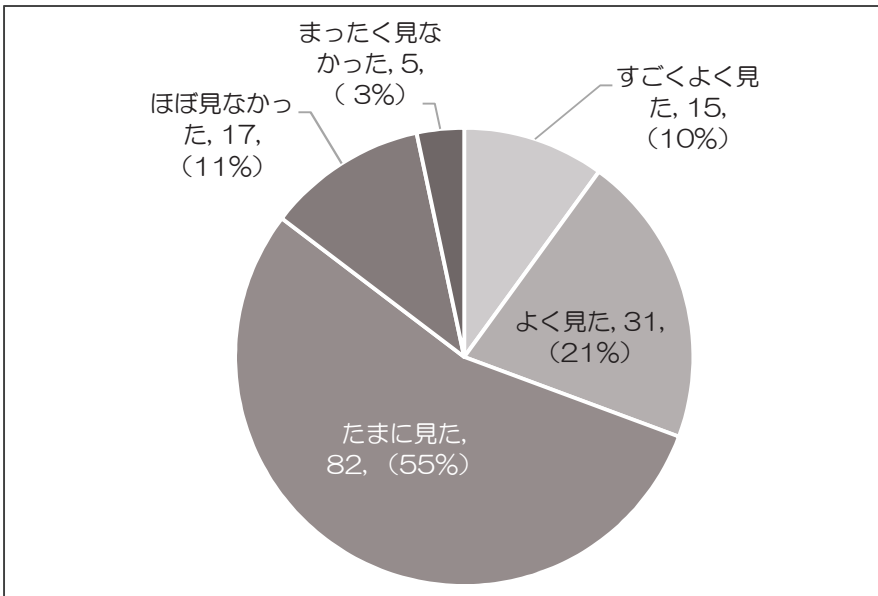
- ・自身が抱えている悩みの共有
- ・ディスカッション力
- ・イベントを企画・運営する経験
- ・ワークの手法
- ・他大学の問題意識
- ・高いレベルの意識・能力

主に、「仲間・人脈」、「新たな視点やアイデア」、「モチベーションや新たな目標」の3つが目的となっていることが分かります。

コクダイパン会議のとらえ方として、「仲間・人脈をつくる場」、「多くの刺激を受け、新たな視点やモチベーションを得る場」であるという認識となっていることが考えられます。

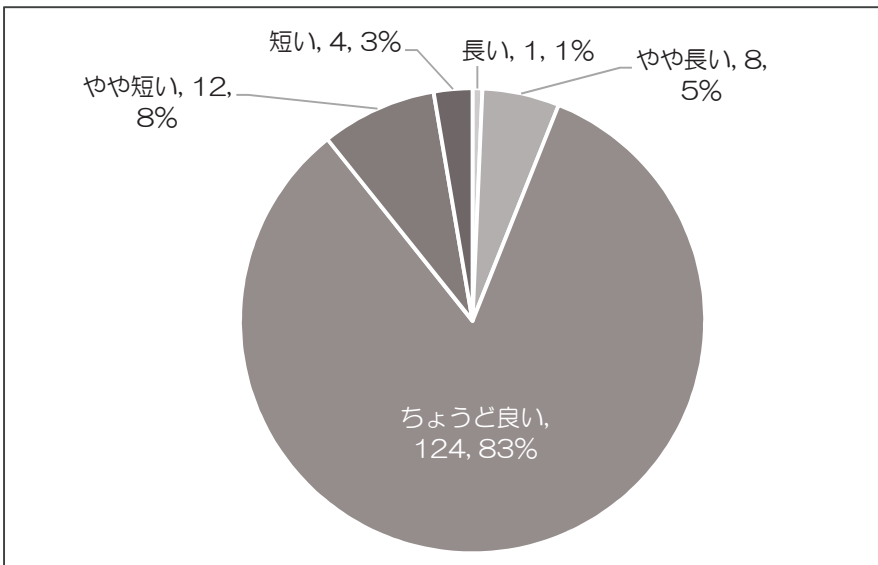
2. 会議について

2-1. 広報（HP、ブログ、フェイスブック）について



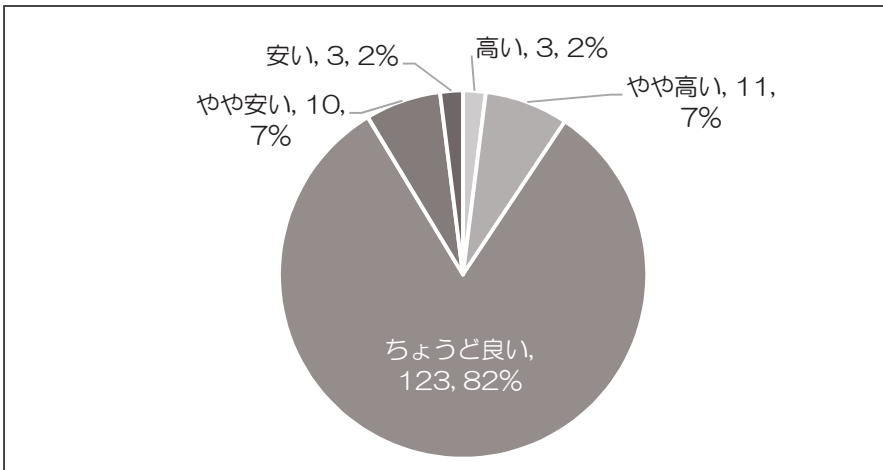
8割以上の参加者が事前に HP 等を読覧しており、参加者のコクダイパン会議への関心度の高さがうかがえます。

2-2. 会議日程についての意見



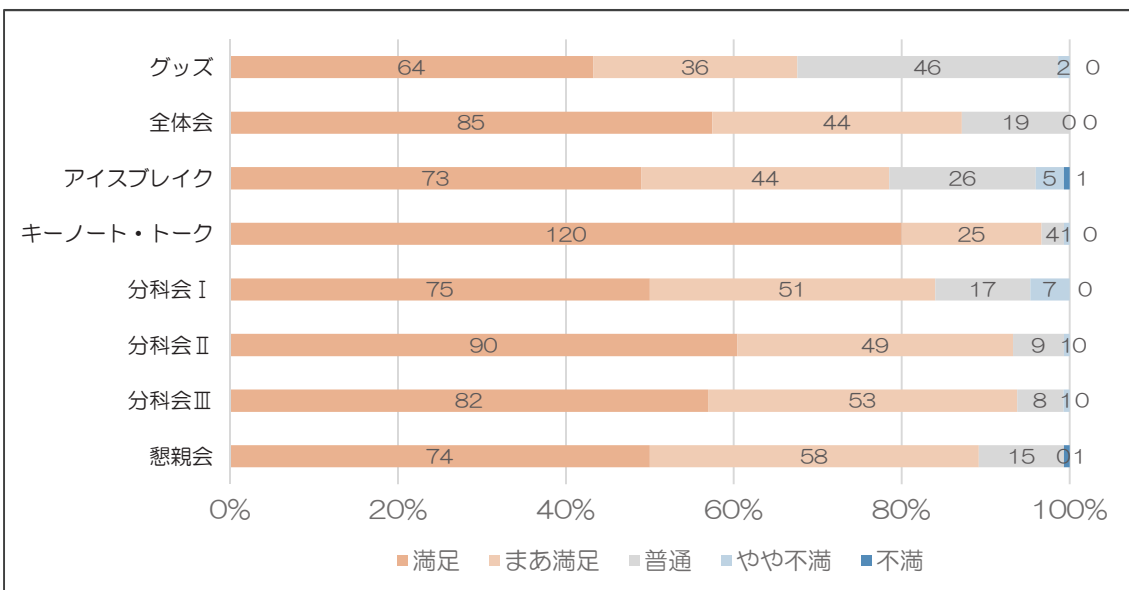
8割以上の参加者が日程・スケジュールの長さについて「ちょうど良い」と回答しており、参加者にとって概ね理想通りの日程で開催できていることがうかがえます。

2-3. 参加費についての意見



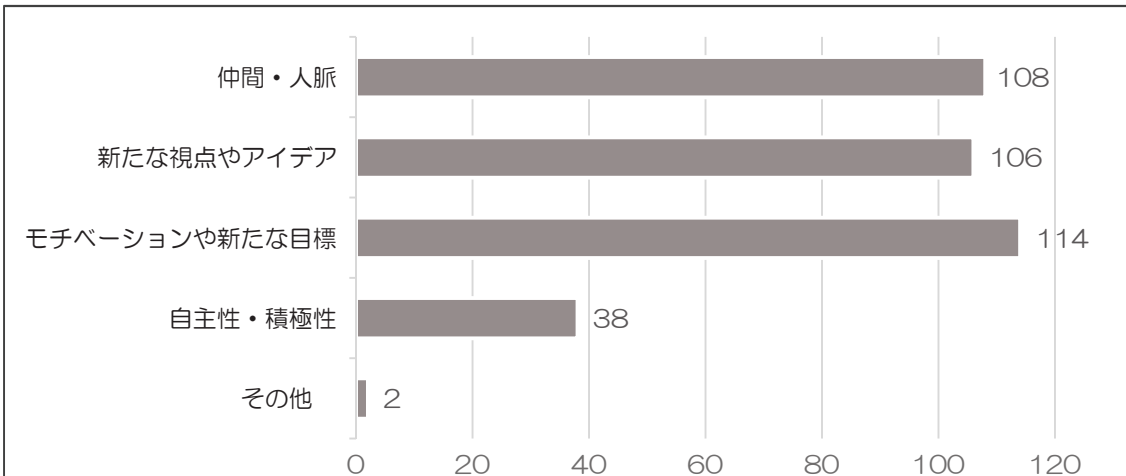
8割以上の参加者が参加費について「ちょうど良い」と回答しており、参加者にとって概ね理想通りの参加費で開催できていることがうかがえます。

2-4～2-11. 会議の満足度



グッズについては「満足」、「まあ満足」が7割と概ね満足を得ることができています。会議の内容については、各項目とも「満足」「まあ満足」を合わせて8～9割と、高い満足度が得られています。特にキーノート・トークでは「満足」だけで8割と、参加者の多くが満足し、得るものが多かったことがうかがえます。しかし、アイスブレイクについては「満足」「まあ満足」が8割に届いておらず、少数ではありますが「やや不満」「不満」とする参加者があり、「時間が短い」などの意見もある点については改善すべき点と考えられます。

2-12. 会議に参加することによって得られた・身に着けられたもの（複数回答可）

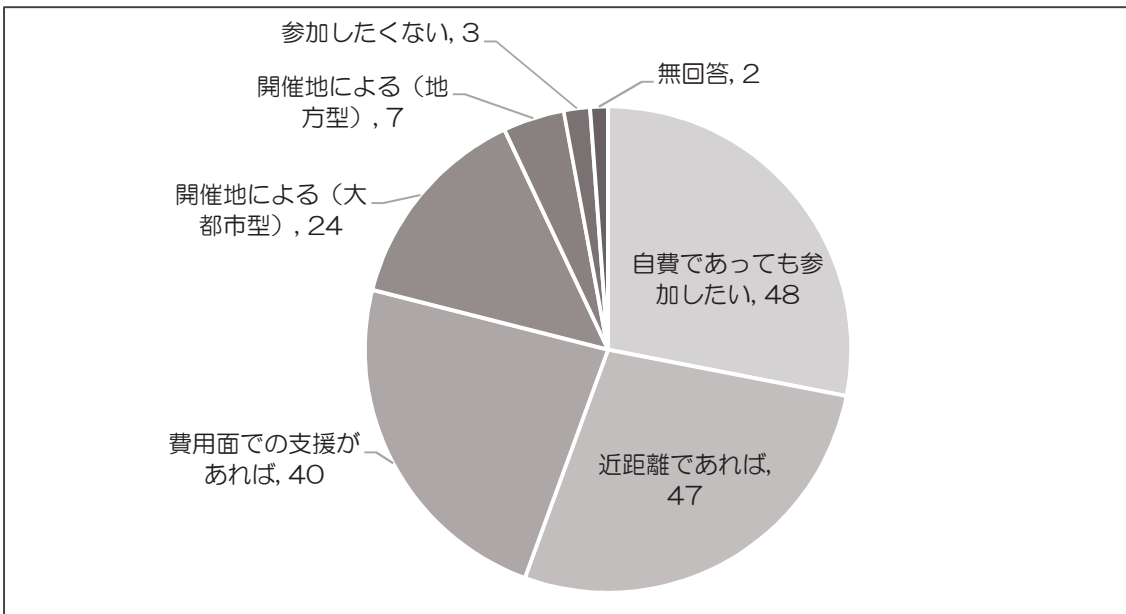


「その他」の回答

- ・達成感、自信
- ・発表、説明の技術

設問1-5. の「参加して得たいもの」と比べると、「モチベーションや新たな目標」の割合が増えています。仲間や人脈を得て、刺激を受けたり、新たな視点やアイデアを得ることによってモチベーションが高まったり、新たな目標が生まれたことがうかがえます。また、今回はキーノート・トークの満足度の高さも考えると、先輩職員の話聞き、新たな目標が生まれたとも考えられます。

2-13. 今後の参加意向（複数回答可）



自費であっても参加したいとの声が一番多く、コクダイパン会議への期待感がとても高いことがうかがえます。

3. 今後について

3-1. 今回の会議を受けて、職場に戻ってからやってみたい活動（抜粋）

マニュアル等の作成

- ・マニュアルの作成と係内共有
- ・学生カルテの作成、明日から役立つ仕事術
- ・朝礼の導入、新人職員向けのハンドブック作成、メンター研修、書類整理術
- ・まずはマネから入るということで「学内問い合わせ先一覧」を作ってみたい

教職員、学内外の連携・協働

- ・ランチMTGで新人・若手職員と情報共有から始める。
- ・同じ業務を行う職員同士でのネットワークの構築
- ・教員との有志活動、学祭への参加
- ・マニュアルを先生と共有できるようにします。（不正経理防止）
- ・他大学との情報共有、分析
- ・大学を跨いだ成果物を作りたい。

SD活動、コクダイパン会議関係

- ・若手勉強会、まずは集まれる環境作りから整備していきたい
- ・具体的な成果物を定めたSD活動
- ・コクダイパン会議での刺激や目標を学内で報告します
- ・コクダイパン参加への支援の提案

自主学習・自己啓発

- ・英語の学習
- ・自分の大学のことを知る→回覧物、会議資料を読む
- ・幅広い情報収集（インターネット、図書館 etc）

業務への取り組み方

- ・自分の役割を把握する、自分の仕事の意義について考える。
- ・まずやってみること。考えるよりも実践することを心がけていきたいと思います。
- ・職場で明るい雰囲気を作る。5分前行動。笑顔とあいさつ。
- ・コミュニケーションをもっと！もっと！積極的に

「成果物のあるSD」や「マニュアル・新規採用職員向けパンフレットの作成」などといった、分科会Ⅱ（事例紹介）等で聞いた他大学の取組に刺激を受けて自分もやってみるといった声が多かったです。

3-2. 今後のコクダイパンで実施して欲しい企画や取り上げて欲しいテーマ

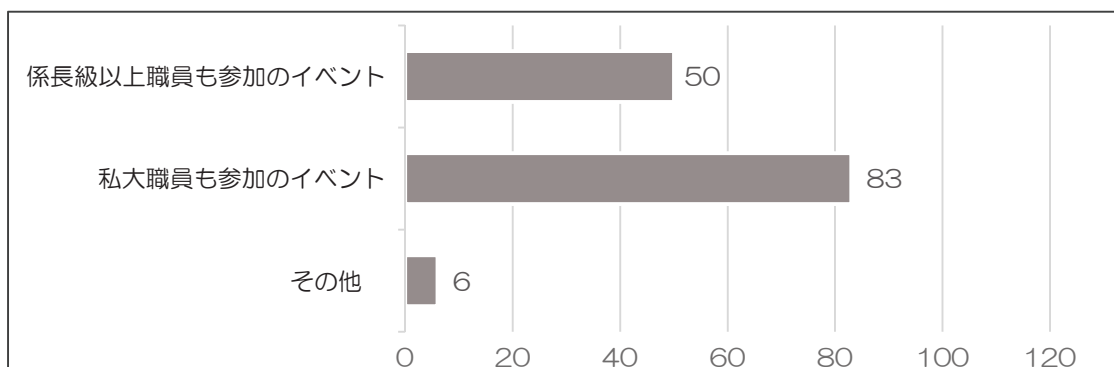
実施して欲しい企画
<ul style="list-style-type: none"> ・キーノート・トークの継続、女性職員によるキーノート・トーク ・業種別の意見交換、グループワーク ・仕事術の講演（タイムマネジメント） ・チャレンジしたいと思っている取組の紹介 ・各自悩みを出し合い、みんなで解決策を検討する

取り上げてほしいテーマ
<ul style="list-style-type: none"> ・係員、主任、係長のあり方 ・コミュニケーション ・地方創成 ・グローバル化時代の大学職員 ・国立大学のマネジメント

3-3. 次回の開催地希望

地区	票数	備考
北海道	1	北海道大学 1
東北	3	山形大学 2、秋田大学 1
関東・甲信越	10	群馬大学 2、千葉大学 1、筑波大学 1
東京	9	東京大学 1、一橋大学 1
東海・北陸	2	
近畿	12	大阪大学 1、兵庫教育大学 1
中国・四国	2	
九州	7	長崎大学 1
沖縄	0	

3-4. コクダイパン会議のスピナウト企画で興味のあるもの（複数回答可）



「その他」の回答

- ・公立大も含めたイベント
- ・地区ごとに行うイベント
- ・実行委員経験者のイベント
- ・大学共同利用機関でのイベント
- ・大学職員以外の人による講演
- ・ブログでのリレーや情報発信

4. その他のコメント

- 自分が普段は意識できていないことに気づかされるのがとても多く刺激になりました。
- 迷ったのですが、参加してよかったと思います。モチベーションが \uparrow になりました！
- 新しいやり方も取り入れられていたり、とても新鮮で5回目でもときどきわくわくするコクダイパンでした。ありがとうございました！
- 初めての参加で、最大の気づきは、全国に情熱を持って発信したり吸収して活かそうとする、アツイ人たちがこんなにたくさんいるということを知れたことです。楽しかったです。ありがとうございました。
- 初心にかえることが出来ました。本当に。貴重な体験でした
- 盛りだくさんであっという間の2日間でした。楽しかったです。勉強になりました。ありがとうございました。

懇 親 会

1日目の全体会が終わった後は、みなさんお待ちかねの懇親会が川内の杜ダイニングで開催されました。メイン料理には仙台名物の笹かまや牛タンも用意されており、参加者にも好評であったという間になくなってしまいました。

山形大学・樋口さんの乾杯の発声で懇親会が始まりました。各テーブルでは大まかな担当業務ごとに分かれた参加者たちが、担当業務の情報交換をはじめ、世間話や趣味の話などで盛り上がっていました。



今年も各機関から持ち寄ってもらい、恒例の大学グッズ紹介を行いました。各々の機関の特徴がよく表れた面白グッズやお土産用として販売している飲食物、大学イチオシのキャラクターがデザインされたクリアファイルなどが提供され、グッズを使って所属機関のアピールをする人とグッズをもらおうとする参加者との間でまた交流が生まれていました。



懇親会の終わりには岩手大学・石沢さんから閉会のご挨拶をいただきました。その後は翌日に備えて宿に戻る者、まだまだ足りない二次会へ向かう者、中には気の合う仲間と三次会まで仙台の夜を満喫した参加者がいたとかいないとか。。



IV. 終わりに

～謝辞～

第8回コクダイパン会議については、会議運営に多大なるご尽力をいただきました会場校の東北大学の皆様、サポーター、事例紹介者、ファシリテーター、進行役、タイムキーパーなどの皆様のおかげをもちまして、台風による参加辞退等の影響以外には特段大きなトラブルに見舞われることもなく、無事成功裡に終了することができました。この場をお借りして改めて厚く御礼を申し上げます。また、長きに渡る実行委員会の活動は実行委員の所属機関の方々、家族の方々などのご理解、ご支援があつてのものだと感じております。これにつきましても、この場をお借りして厚く御礼を申し上げさせていただきます。

ここに、第8回コクダイパン会議の報告書が完成いたしました。今回の会議では、参加者各々の「なりたい大学職員像」とそれに近づくための「行動指針（マイクレド）」を作成していただきました。各自のマイクレドとあわせて、本報告書をご覧ください、日々の取組にご活用いただけましたら実行委員一同幸いです。

コクダイパン会議の第1回から貫かれている方針として「コクダイパン会議は参加者一人ひとりが創り上げてゆくものである」というものがあります。前回の報告書にも記載がありますが、コクダイパン会議の存在意義や方向性については、これまでの実行委員会でも議論がなされてまいりました。今回の会議では初めての試みとして、会議参加対象外の方からご講演をいただき、これについては、会議実施後のアンケート等からも参加者が多くの「気づき」を得られたことがうかがわれますが、この試みはあくまで参加者である「パン」の皆様が会議の場で自ら学び、気づき、各自の業務につなげていく中で必要であると考えて企画したものです。「参加者一人ひとりが創りあげてゆくものである」という方針は変わらず持ち続けています。

コクダイパン会議は、国立大学の法人化後の状況に危機感を抱いた若手職員が全国の大学職員が集う「決起集会」として第1回を開催したという成り立ちから、毎回、実行委員を全国から募り実行委員会を組織し自主的に企画・運営を行っております。過去の報告書等を見るに、これまでのコクダイパン会議で多くの参加者が、自らの業務につながる「気づき」「人脈」「モチベーション」などの成果を得てきたことと思いますが、そういった場を続けていくためには、当然ながら実行委員も含め全国から参加していただく多くの参加者の存在が不可欠です。そして開催する場所（開催校）が必要であり、また、有形無形のご支援をいただいている各機関の存在も重要となってきています。コクダイパン会議は、その目的や運営方法から国立大学の一般職員であるという以外には、機関ごとの人数や参加回数に制限は設けておりません。今回参加していただいた皆様には、是非また参加していただくことで、自身の成長につなげることに加え、会議の持続的発展にご協力いただければと考えております。また、所属機関で今回の会議で得た成

果を積極的に還元していただければと思います。

最後になりましたが、皆様の今後益々のご活躍を祈念し、謝辞とさせていただきます。来年もまたどこかの国立大学で皆様とお会いできること、また、今回の会議で出会った皆様は所属機関の業務においても繋がりを保ち続けていただけることを期待しております。